

四十五年経った今でも

今朝三年C組の教室に入ったとたん、自分の中学時代が蘇ってきました。授業は社会。黒板には「縄文」から「平成」までの時代名を示したカードが貼（は）られています。教科担任のK教諭は、カードの順番に時代を生徒たちに覚えるよう指示していました。

今でこそ古典と時代とを関わらせて、歴史の流れを理解できています。私ですが、中学時代は社会が大の苦手で、大嫌いでした。とりわけ歴史については、「いつの時代にどんなできごとがあるか」「これは何時代のできごとか」というようなことが全くわかりませんでした。一つ一つのできごとは理解できても、時代の流れの中でそれがとらえられなかったのです。

あれは中学三年の夏だったと記憶しています。電車に乗って瑞浪に行き、当時瑞浪駅前にあった東文堂書店で、ある一冊の参考書に出合いました。その本の名は「歴史年代記憶法」。確か、出版社は「旺文社」でした。ポケットにも入る小さな参考書でしたが、その本が私の社会の勉強を一変させました。

社会科の教員には怒られるかもしれませんが、受験もどんどん近づいてくるので、当時の私には丸暗記するしかありませんでした。

その参考書は、語呂合わせで年代を覚えさせるという内容のもの。「ウグイス鳴くよ（794）、平安京」というように、脈略のないフレーズですが、できごとと年代を効率よく覚える秘訣（けつ）がそこにはありました。その本の中に、次の長めのフレーズがありました。

「原始山、明日なら平安、鎌室の、安土をとって、江戸へ行け。」

わかりますか。「原始」は原始時代、縄文時代と弥生時代のこと。「山」は大和時代。「明日」は飛鳥時代。「なら」は奈良時代。「平安」はもちろん平安時代。「鎌室」は鎌倉時代と室町時代。「安土」は安土桃山時代。そして、「江戸」は江戸時代。こうやって当時の私は時代の流れを覚えました。

今はこのフレーズを使わなくても、時代順に出てきます。しかし、四十五年たった今でも、私の脳裏にはしっかりと焼き付いていますよ。

（六月二十六日 記）